

富山

007

見本

令和 7 年 度

医 学 部 看 護 学 科

特 別 選 抜

小 論 文

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. この問題冊子には、表紙を除いて問題用紙は3枚、解答用紙は5枚、下書用紙は5枚あります。試験開始の合図があってから確認してください。  
なお、文字等の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等があった場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
3. 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を記入してください。
4. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入してください。解答用紙の所定の欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としません。
5. 解答用紙以外は、試験終了後、持ち帰ってください。

実施年月日
-6.12.-9
富山大学

1 下記の図表は、ジェンダーギャップ指数\*を示している。下記の問に答えよ。

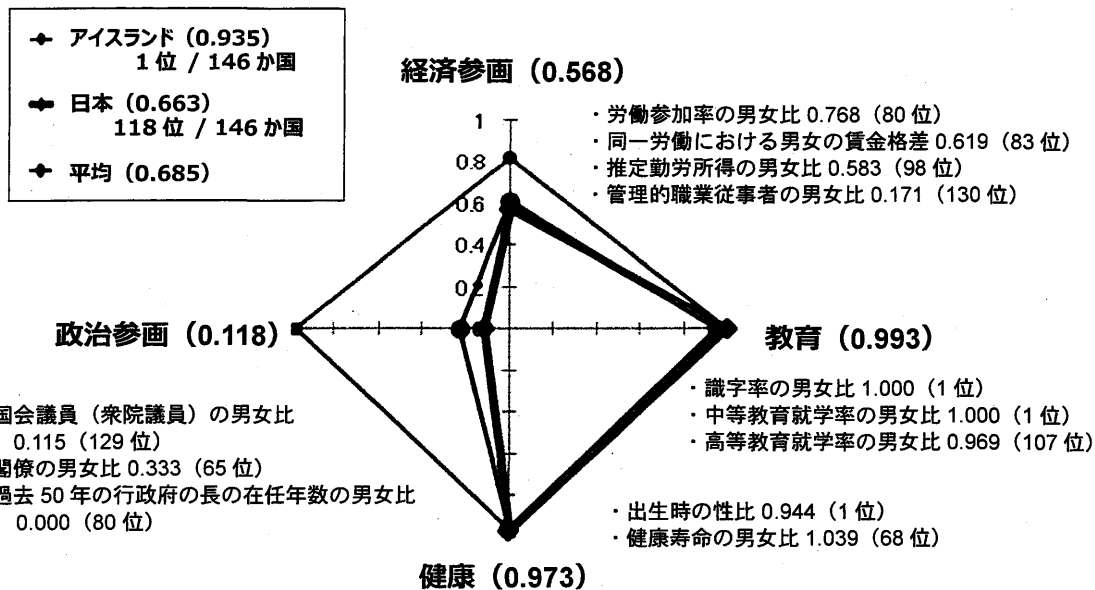


図 1.ジェンダーギャップ指数 (2024)

表 1.ジェンダーギャップ指数 (2024)

順位	国名	値
1	アイスランド	0.935
2	フィンランド	0.875
3	ノルウェー	0.875
4	ニュージーランド	0.835
5	スウェーデン	0.816
7	ドイツ	0.810
14	英国	0.789
22	フランス	0.781
36	カナダ	0.761
43	アメリカ	0.747
87	イタリア	0.703
94	韓国	0.696
106	中国	0.684
116	バーレーン	0.666
117	ネパール	0.664
118	日本	0.663
119	コモロ	0.663
120	ブルキナファソ	0.661

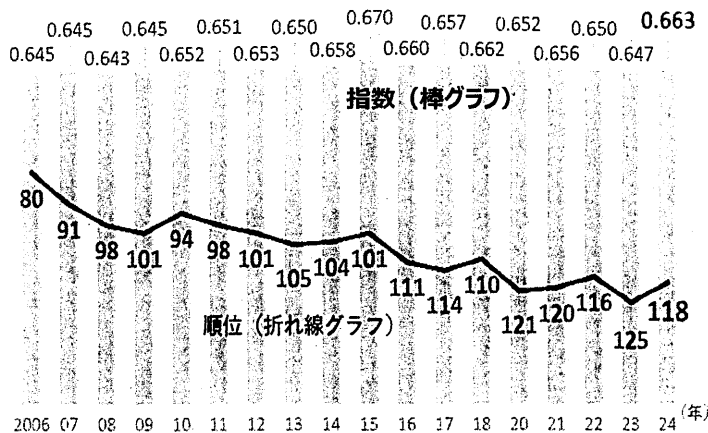


図 2.日本のジェンダーギャップ指数と世界順位の推移

出典 : Global Gender Gap 2024 [https://www3.weforum.org/docs/WEF\\_GGGR\\_2024.pdf](https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2024.pdf) pp219-220,2024  
 男女共同参画局 : 男女共同参画に関する国際的な指数  
[https://www.gender.go.jp/international/int\\_syogaikoku/int\\_shihyo/index.html](https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html) より引用、一部改変 (図 1,表 1)  
 朝日新聞 SDGsACTION : <https://www.asahi.com/sdgs/article/153018225> より引用、一部改変 (図 2)

\*ジェンダーギャップ指数 : 経済・教育・政治・保健の4つの分野を総合してつけられる男女間の格差を数値化した指標。0が完全不平等、1が完全平等となり1に近いほど順位が高くなる。

(1) ジェンダーギャップ指数から考えられる日本の問題を 400 字以内で述べよ。

(2) ジェンダーギャップ指数から日本社会の課題と、今後あなたや私達が取り組むべきことについて 400 字以内で述べよ。

2 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

英語には「頑張れ」や「元気をだせ」に相当する表現がないのをご存じでしょうか。「諦めるな」や「ベストを尽くせ」など具体的な表現ならばありますが、「頑」や「気」といった精神的な表現は一般的ではありません。

「気合い」などという抽象的なシロモノは、欧米人にとってはきっと意味不明なのでしょう。かくいう私も、よくよく問い詰められれば、「気」とは何かをうまく説明できません。たしかに「気合いを見せろ」と問われても、実際に「はい、これが気合です」と指し示すことはできません。

「頑張れ」は、あえて英語に翻訳すれば、「Chin up」や「Cheer up」などの表現に近いニュアンスでしょうか。直訳すれば「アゴをあげろ（＝うつむくな）」あるいは「声をあげろ」という意味です。どちらも、身体的な行為に根ざした表現です。

日英の表現の違いは面白いと思います。日本語ではあくまでも心の内側から気合いで元気を出すのですが、英語では身体表現を通じて元気を出すのです。

この違いはもはや文化の差としか言いようがありませんが、こうした精神重視の傾向は日本の伝統の傾向を炙り出しているようにも思えます。つまり、身体性が希薄なのです。

近年の日本では、さらに精神性を重んじる余り、身体的重要性をさらに疎かにする傾向がみられます。自分探しの旅や、ネットサーフィンなど、身体性を放棄して意識や心を探求する「メンタルトラベル」がもてはやされています。

私は日々脳を研究していて感じるのですが、「健全な魂は健全な肉体に宿る」という、いまや前時代的とも言えるユウエナリスの言葉にこそ、より生物学的な本質が潜んでいるのではないのでしょうか。

「まずは形から」—現代だからこそ、この言葉を大切にしたいと願うのは私だけでしょうか。

出典：池谷裕二：脳には妙なクセがある，pp140-141，扶桑社，2012年より引用，一部改変

(1) 筆者が考える「日英の表現の違い」について、文中からその具体的な例を取り出し、250字以内で述べなさい。

(2) 「健全な魂は健全な肉体に宿る」について、具体例を挙げながら、あなたの考えを600字以内で述べなさい。